

入賞

## 福島を身近に感じてもらうために

福島県立安積中学校

はしもと こはる  
橋本 心春

私が福島や原発に関する研修に参加した際、今も昔も、情報が正しく伝わっていないと感じた。

福島で原子力事故が起こるまでは、「福島の原発は安全、事故なんて起こらない」ということが常識であり、学校の教育でもそのようになっていた。実際にはアメリカやロシアなどで事故は起きていたが、福島のものは安全だと言い続けてきた。つまり、正の側面しか見ていなかったのである。一方、今の福島は、「福島は放射線量が他の県よりも高くて危ない」「福島で育てたものは食べられない」などと言われていることがある。負の側面が多く伝わっているのである。

また、処理水を流した際、中国からの迷惑電話が多くかかってきたことがあった。私は、中国よりも濃度が低いものを流しているのに、なぜこんなことをされるのか、と疑問に感じた。しかし、これは、中国政府が情報統制を行い、日本の流した処理水が基準よりも濃度が高いような報道がなされた結果である。一方、今の日本で情報統制はされていない。それなのに、日本と中国のどちらの国でも偏った情報や誤った情報が伝わってしまう。このようなことが起こるのはなぜなのか。そして、このような状態を防ぐにはどうすべきか。

誤った情報が流れてしまうというのは原発に限らず、様々な分野において起こることだろう。それは、人はどうしても偏見があり、偏った見方をしてしまうからだろう。そのため、完全に正しい情報を伝えるのは不可能である。

しかし、どれだけ正確な情報に近づけるのかを考え続けることはできる。

そこで、私は、情報を今よりも正確にするために、社会人を対象に、現地に行かずとも福島・原発について学べる社会人対象のオンラインツアーを行えば良いと考えた。私が中高生を対象にした研修に参加した際、家族にも学んだことを話した。その時、子供や子供のいる大人は情報を正確にしていく機会がある。しかし、そうでない人は機会が少ないのではないかと思った。もちろん、社会人を対象にした研修は多くある。ただ、そのようなものを見かけたとしても、福島に実際に行く時間を持つのは難しいだろう。福島県や相双地区は交通の便がいいとはいえずらい。移動だけで何時間もかかってしまう。多くの時間とお金をかけてまで福島に行くかと聞かれると、行かないと答える人も少なくないだろう。その点、オンラインツアーは移動にかかる時間やお金をなくすことができ、参加しやすくなるだろう。オンラインツアーの内容としては、現地で行っている研修の動画を参加者の目線で見れるようにするというものだ。このような内容にしようと思ったのは、私が見たオンラインツアーは、専門の人たちがモニターに映り、福島や原発について2時間説明していくものだった。福島の自然やグルメについては話されていなかったのである。しかし私は、福島の自然やグルメなど、良さについて話し、それを実際に見せることで、今が伝わると思う。また、長い動画を見せるだけでなく、部分、部分で切り取った動画もあげる必要があると考える。十分ほどの動画であれば、簡単に見ることができるため、参加しやすくなり、現地に行っていなくとも質の高い経験をすることができる。

このように、社会人向けのオンラインツアーを実施したり、今ある研修の内容を変えてみることで、今よりも情報が正確に伝わり、福島の今や良さを知る人が増えるのではないだろうか。